福中村也、網干・室津に至るの道之東に城米の土蔵有、蔵の小（北カ）を大蔵前町と云、南を葛屋町と云、和俗藁にて家を葺（フク）を葛屋（クツヤ）と云、今は富田町と云、此辺巳歳洪水に潰流（クヴイリウ）し船場川西に流中嶼（シマ）となる故に商家本徳寺の南に移、米田町の東を上片町と云、洪水の後米田町の西に移り夫より一丁目にいたり車門の橋有、東に行は城内に至る、夫より川端（ハタ）片側町を北に至は材木町と云、市の橋有城内に至る、材木町ニ至る前に炭屋橋有、此辺凡竹木の諸材を版（ヒサ）く、夫より北北（小）利木町と云、古しへ柴薪を販（ヒサ）く所京師樵木（コリキ）町に薪を売り類しての名なるへし、材木町の西柳町と云の増位町は旧増位山の下ニ有、是より北山の井村、市鄜（シヂン）に隣り龍野町の北一二丁目の後を吉田町西を農人町と云、是を凡川西と云

（後略）

3　明治の姫路城

(1)　姫路城の存城措置

六五　姫路城内旧県庁舎借用願

防衛研究所図書館所蔵

第六百七十号

姫路城内建物借用願

当県新置以来都合モ有之姫路城郭内元同県庁跡ニ於テ事務取扱来候、且当時本庁造営之地所取調中ニ付、当分之処是迄通右旧庁跡借用仕度此段相願候、以上

（明治五年）壬申七月　　飾磨県印

陸軍省御中

（朱書）「書面旧庁当分之内貸渡可申事

但請書可差出事　　七月九日」

〔「陸軍省大日記」府県之部〕

六六　全国城郭は存城のみ陸軍省管轄

国立公文書館所蔵

（明治六年）一月十四日　六年

陸軍省へ達

全国城郭及軍事ニ関渉スル地所建物是迄其省管轄ノ処今度別冊第一号ノ通陸軍必用ノ分改テ管轄被仰付、其余第二号ノ通旧来ノ城郭陣（陣）屋等被廃候条附属ノ建物木石ニ至迄総テ大蔵省ヘ可引渡事　陸軍

一右管轄ノ土地ヘ屯営建築落成ノ上地所木石等有余ハ大蔵省ヘ可引渡、地所不足スレバ更ニ選定シ大蔵省協議ノ上伺出候ハヽ、無代ニテ可相渡事

一今後屯営地所練兵場等有用ノ節且全国防禦線決定ノ日ニ至砲整塁壁等建築ノ地所ヘ無代ニテ可相渡候条其省ニ於テ選定シ大蔵省協議之上可伺出事

一木更津新潟水沢青森岐阜七尾兵庫大津敦賀浜田須崎浦千歳長崎十三ヶ所ハ必用ノ区域相定大蔵省協議ノ上地所可受取事　陸軍

大蔵省ヘ達　正院

（前者同様につき省略）

陸軍省申立

全国元藩々城郭陣（陣）屋等当省現今必用ノ分ハ第一別冊其余不用ノ分第二別冊ノ通有之候間廃城被仰付地方官ヘ御引渡相成可然存候、尤大蔵省ヘ打合候処異存無之趣ニ候間別紙ノ趣意ヲ以テ早々両省ヘ御沙汰相成度此段申進候也

猶以別紙ノ内略相記候通此先当省入用ノ分ハ勿論無代ニテ御引渡相成度、現今差向鎮台差置度箇所ハ第一別冊ニ○印ヲ以テ申進候間御引渡相成候様致度存候也　壬申十一月二十四日　陸軍

全国城郭地所ノ儀ニ付大蔵省ト陸軍省ト取替ス条約書

一全国城郭幷ニ軍事ニ関渉スル地所建物等是迄陸軍省管轄ニ有之候処今後陸軍必用ノ地ヲ除ノ外城郭何所陣屋何所合何十何所幷ニ附属スル家屋木石等悉皆大蔵省ヘ引渡候事

一前条陸軍必用ニツキ残シ置クノ地屯営建築落成ノ上地所幷ニ木石ノ類余リアレハ大蔵省ヘ引渡候事

但地所不足スルトキハ陸軍省ニ於テ更ニ撰択シ大

蔵省ヨリ其代金ヲ弁シ陸軍省ヘ可相渡事
一城郭ハ勿論屯営地所練兵場等今後有用ノ時ハ陸軍省ニ於テ地所ヲ撰択シ大蔵省ヨリ受取其代金ハ大蔵省ヨリ弁ス可キ事
一全国防禦線決定ノ日ニ至リ砲塹塁壁等建築ノ地所ハ陸軍省ニテ撰択シ其代金ハ大蔵省ヨリ弁ス可キ事
陸軍

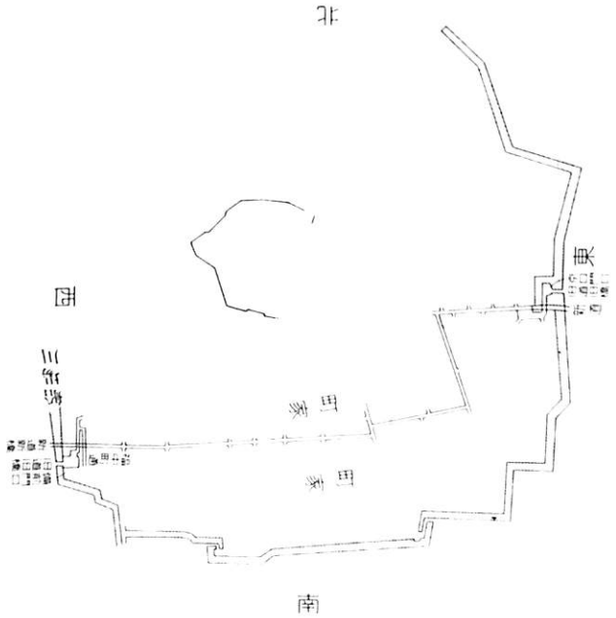
（別冊略）　〔「太政類典」兵制十三・鎮台及諸庁制置〕

六七　姫路城外郭跡の道路改修

国立公文書館所蔵

（明治六年）十月十四日　六年
飾磨県下姫路外郭跡ノ道路ヲ改修ス
大蔵省伺
飾磨県管下姫路外郭取払跡別紙図面ノ通道路更正ノ儀伺出ノ通聞届可申ト存候、別紙相副此段相伺候也
十月三日
伺之通十月十四日
飾磨県伺　大蔵省宛

当姫路外郭取払ノ儀先般御指令済ニ相成候ニ付テハ外京口門ヨリ七間南、備前門ヨリ十間北ヘ、別紙図面朱引ノ通道筋相更申度、尤舩場川架橋ノ儀ハ市中ヨリ出願ノ旨モ有之候間一切民費ニテ出来為致度、此段至急御許可有之候様相願候也九月十日
庶務課議案　地誌課歴査

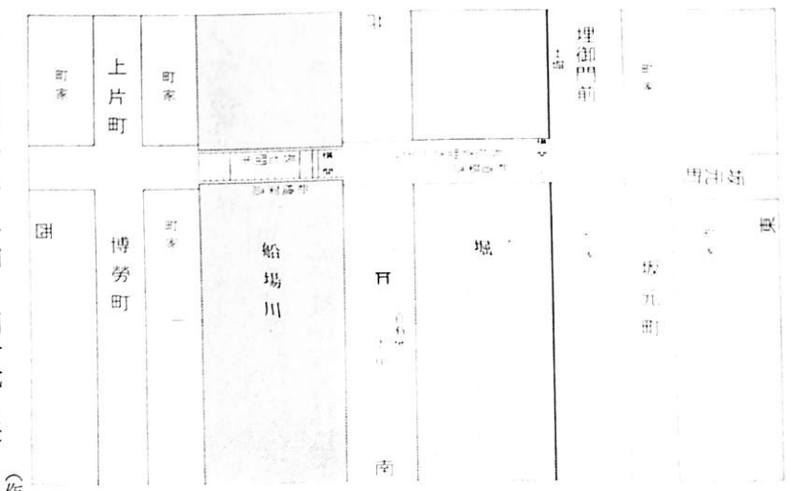


別紙大蔵省伺飾磨県下道路更正ノ儀ニ付同県申立ノ趣、右ハ民費興業ノ儀ニモ有之別ニ差支筋有之間敷伺ノ通御許可相成可然哉、御指令案左ニ相伺候也十月七日　〔「太政類典外編」三二〕

六八　堀埋立船場川ヘ架橋願

国立公文書館所蔵

新道幷新橋架造願之儀伺
当県下飾東郡坂本町外三ヶ町ヨリ同町西姫路城郭埋門外官有地東西長拾壱間壱尺五寸、南北長弐間四尺五寸、新道築造船場川江架橋致候得は行人之便路ヲ得候趣ヲ以堀ヲ埋土居ヲ毀チ新道架橋自費ヲ以仕度旨願出、精細取調候処相違無之候ニ付御許可相成候哉、依而別紙絵図面相添此段相伺候也
但堀幷土居之儀昨年七月処分伺済之ヶ所ニ付本文之通取調相伺候也
明治七年十月卅一日　飾磨県権令　森岡昌純
内務卿　伊藤博文殿



明治七年十二月十四日　同廿七日来
大臣㊞（三条）㊞（岩倉）㊞（作間）㊞（大田）　議長㊞（伊地知）㊞㊞㊞㊞（日下部）（尾形）
参議㊞（大隈）㊞（寺島）㊞（大木）㊞　内務課㊞㊞㊞
財務課㊞

内務省伺別紙飾磨県上申新道築造幷ニ架橋之議審按候処右ハ陸軍省管轄外ニシテ別ニ指支ノ儀モ無之大ニ往来ノ便利ヲ開キ人民ノ公益ヲ起シ候儀ニ有之候ヘハ上請通御許可相成可然存候、由テ左按調査此段上陳候也

御指令按

伺之趣聞届候事

明治八年一月七日

〔「公文録」明治八年一月内務省伺一〕

六九　外京口門・北条門取払跡地の入札払下げ

飾磨県布達

乙第百廿八号

市街幷士族邸地に孕る明地別記ヶ所々公の入札を以払下候条該地望之者ハ雛形に倣ひ来明治九年一月十七日までに入札可致、此旨布達候事

但翌十八日開封候条午前第十時までに出頭可致事

明治八年十二月廿三日　権令森岡昌純代理　飾磨県参事　岡崎真鶴

雛形　（省略）

市街幷士族邸地ニ孕ル明地取調帳

（中略）

伝習所北
一地坪百八拾弐坪　外京口門取払跡

同国飾東郡

伝習所東
一地坪百四拾坪三合　右同所

西ノ方
一地坪五拾七坪六合　北条門取払跡

東ノ方
一地坪弐百七拾九坪三合　右同所

〆五拾五ヶ所

七〇　廃城陣屋ならびに付属地等入札払下げ

飾磨県布達

乙第三百号

廃城陣屋幷附属地及官舎別記之ヶ所々々今般広ク入札ヲ以払下申付候条望之者ハ実地熟視之上左之雛形ニ倣ヒ来ル三十一日マテニ封書ヲ以願出ヘク、此旨布達候事

明治九年八月十四日　飾磨県権令　森岡昌純

（中略）

（原文一つ書一段書）

飾東郡飾万津　直養

第拾一号
火薬蔵
一地坪弐十七坪壱合　拾五番地
一地坪拾坪　此建坪八坪

（直養）

拾七番地
一地坪拾坪　拾八番地
一地坪十坪
此建坪八坪　此建坪八坪

井壱番地
一地坪十坪　井二番地
一地坪十坪
此建坪八坪　此建坪八坪

十二所前　廿番地
一地坪拾四坪九合　五軒邸東町藪側

四十壱番地
一地坪十弐坪　此建坪拾四坪　此建坪八坪

此建坪拾坪七合五夕

（中略）

揖西郡林田

第壱号　第弐号　第四号　第五号　自第六号至第拾号
水屋文庫　文庫　百人番所　門五箇

一地坪千三百七拾八坪七合

此建坪弐百六坪八合五夕

此建具弐百卅四本　内　襖卅本　障子八十本
戸百廿本

第三号
武庫
一地坪四十九坪八合

此建坪八坪

第十六号
厩
一地坪九十壱坪七合

此建坪卅三坪

第廿九号　第廿五号
東門番所　東門
一地坪九十三坪壱合

此建坪拾四坪

此松立木五本

第廿二号
西官舎
一地坪廿坪九合

此建坪九坪

第廿壱号
東官舎
一地坪三十三坪九合

此建坪十二坪五合

第廿三号
南官舎
一地坪廿壱坪七合

此畳百卅八枚

此立木拾三本　内　松六本　雑木七本　但目通平均弐尺壱尺

但門敷地ハ通路に付除之

但目通平均弐尺

此建坪八坪七合五夕

第廿四号南門　第廿七号南門番所
一地坪五拾六坪四合　但門敷地ハ通路に付除之

此建坪拾四坪

第廿六号西門　第廿八号西門番所
一地坪百四坪五合

此建坪拾五坪九合五勺

第廿三号牢檻門共
一地坪四拾五坪七合

此建坪十六坪五合

第廿六号火薬倉
一建坪六坪　但敷地ハ民有地に付除之

此松木三本　但目通平均壱尺五寸

第三十号練兵所
一地坪四百卅壱坪弐合

第卅壱号茶園
一地坪七百六十壱坪四合

此雑木五十七本　但目通平均壱尺五寸

第卅二号藪跡
一地坪弐百六拾二坪八合

第卅四号馬場
一地坪千廿壱坪二合

第卅五号藪跡
一地坪弐百八拾九坪八合

第四十八号練兵場口
一石垣拾五坪三合三夕

第四十五号馬場内
一石垣九坪

第四十六号　第四拾七号門二箇
一建坪弐坪

是ハ揖東郡吉美村に有之

（下略）

七一　姫路城天守閣の修繕につき伺

防衛研究所図書館所蔵

工千百五十七号　陸二千五百六十四号

姫路城天守修繕之義ニ付伺

一金三百八拾壱円六拾銭

右は姫路城天守ノ修繕入費ナリ、抑モ該城天守其他在来建家ノ如キハ以往有用ノ目途無之候得共、古来有名ノ城郭ニシテ殊ニ城郭ノ基礎タル天守ノ屋根及外部ノ壁牆等所々破壊ニ趣キ該城ノ体裁ニ関スルノミナラス、

今之ヲ閣（ママ）ノ時ハ僅少ノ損所ト雖トモ雨ニ風ニ日ニ一日ヨリ大破ニ趣クハ論ヲ俟タス、是時ニ当リ巨金ヲ費シ修理ヲ加ヘンヨリハ寧此少ノ金員ヲ費シ今之ニ修理ヲ加フル時ハ該城ノ体裁ヲ能スルヲ以テ、修繕費ノ如キモ当年度経費案中登記シ既ニ進呈仕置候処、就中短的尤モ難閣（ママ）部分而已修理ヲ加ヘ保存相成可然見込ヲ以其入費ヲ取調フルニ、即本行ノ金員ヲ要候ニ就テハ右修理御允容相成度、然ル上ハ其失費タル当方面定額常費ノ内ヨリ仕払候様仕度、別紙経費仕法ノ両案相添此段相伺候也

十年十一月廿八日　工兵第四方面提理代理 陸軍少佐 飛鳥井雅古

陸軍中将 西郷従道殿

伺之通　十二月十三日

〔陸軍省大日記砲兵工兵之部〕

七二　名古屋・姫路城郭保存の儀につき伺

防衛研究所図書館所蔵

第三号　参第三千九百二十三号意見

別紙第四局伺出名古屋姫路城郭保存之義（儀）ハ同局伺出之通リ夫々御処分相成可然存候、此旨及御回答候也

（明治一二年）一月六日　参謀本部 総務課

陸軍中佐 浅井道博殿

別紙参第三千九百二十三号第四局伺出候付御意見承知致度、此段及御照会候也

十二月二十六日　陸軍中佐 浅井道博

参謀本部 総務課御中

（欄外）「至急」　参第三千九百二十三号

名古屋姫路両城郭保存之義

太政官江上申相成度ニ付伺

当省所轄存城之内名古屋姫路両城郭之義ハ全国中比類ナキ構造ニ付該建物之義モ可成永年保存修理相成度見込ニ有之候処、近年本省定額費減少ニ付他至要之工業モ大抵十ノ三四ハ就工ヲ得サルノ状況ニ因テ不得止城郭建物之内追々朽腐傾頽ニ属スル者ハ往々売却之御都合ニ相成居、既ニ名古屋城之如キハ過般本丸周囲櫓多門等破壊シ保存修理ニ巨多之金額ヲ費スヘキヲ以テ解

除着手中、御巡幸ニ際シ四条少将ヨリ右保存之義縷々開申之上一時解除見合置候趣ニ有之、然ルニ今般特旨ヲ以テ彦根城郭保存之義被仰出候ニ付テハ前両城郭之如キハ其構造無論彦根城之右ニ出ル者ニシテ、今之ヲ保存相成候得ハ我国往昔築城之模範ヲ永年実見スルノ功効不尠候条、右保存之義左之通太政官江御上申相成候様致度、此段相伺候也

十一年十二月二十六日　第四局長代理 陸軍大佐 中村重遠

陸軍卿 山県有朋殿

追テ本文御許可之上ハ工兵第三方面本署ヘ左之通御達相成度候也

太政官ヱ上申案

当省所轄存城之内名古屋・姫路両城之義ハ全国中屈指之城郭ニシテ就中名古屋城ハ規模之宏壮姫路城ハ経営之精巧ナル他ニ比類ナキハ論ヲ竣(俊)ス、因テ永年之ヲ保存修理シ我国往昔築城之模範ヲ実見スルコトヲ得セシメントス、抑該城郭建物之義ハ数百年之星霜ヲ経過シ保存修理等ニ巨多ノ金額ヲ費サヽルヲ得ス、近年当省定額費減少之際百般事業之緩急ヲ取捨シ急中之最急ナル者ヨリ漸次就工スルヲ以テ、該城郭保存修理之如キハ金額支出之都合ニ因テ到底幾年ヲ経ルモ着手之目途無之、竟ニ空ク腐朽傾頽ニ帰セシメンヨリ寧ロ解除売却之手段ヲ施スニ至ル、是亦万止ヲ得サルノ事ニ出ルト雖トモ熟考スルニ今之ヲシテ廃棄ニ属スル時ハ我国往昔築城之模範復他ニ就テ求ム可カラス、然ルニ今般特旨ヲ以テ彦根城郭保存之義被仰出候ニ付テハ名古屋・姫路両城郭之如キモ前条開申之状況御熟察之上特旨ヲ以テ保存被仰出、右保存修理費別額ヲ以テ永年ノ御下付相成候様致度、尤名古屋城之如キハ過般御巡幸之際少将四条隆謌ヨリ岩倉右大臣ヱ開申致置候趣御聞置相成候事ト存候条、何分之御詮議相成度、此段相伺候也

追テ本文両城郭保存被仰出候上ハ保存修理等之事業ハ当省ニ於テ担負可致見込ニ有之、此段申添候也

工兵第三方面本署ヱ達案

本年衛第二千七百七十号ヲ以テ名古屋城建物破壊之ケ

所解除之義及指令置候処、追テ何分相達候迄解除方見合置可申、此旨相達候事

〔陸軍省大日記」同議意見 参謀本部〕

三　名古屋・姫路両城郭修理費額につき指令案

国立公文書館所蔵

明治十二年六月　富島永□

調査局

別紙陸軍省伺名古屋姫路両城保存ノ義審案候処、大蔵省上答ニモ陳述ノ通リ両城共兵隊屯在ノ場所ニ付建物修繕ノ費用ハ同省経費中ニ予テ見込モ可有之訳ユヘ保存ニ付及修繕ノ費用トモ経費中ヨリ幾分カ支弁相成可然義ニ付、今般同省伺ノ趣御採聴ノ上ハ修繕并保存費用ノ義ハ大蔵省上答ノ通リ申立高ノ凡半額一時御下付、其余ハ陸軍省経費中ヲ以テ差繰支弁候様御指揮相成可然哉、仍テ御指令案等左ニ取調仰高裁候也

御指令案

伺ノ趣名古屋城修繕費トシテ一時金五千円、姫路城同断金弐千五百円可下渡ニ付大蔵省ヨリ可受取、且保存費用ハ名古屋城ヘ年額金五百円、姫路城ヘ同断金八百円宛、来十二年度以降其省経費ヘ増額可下渡候条保存方担任可致、尤修繕及保存費用共右金額ニテ不足ノ分ハ其省経費内ニテ差繰支弁可致候事

大蔵省ヘ御達案

別紙陸軍省伺名古屋・姫路両城保存ノ義朱書ノ通及指令候条金額渡方可取計、此旨相達候事

内務省ヘ通牒

「右両城(附箋)之儀ハ該省具陳ノ如ク本邦屈指ノ城郭ニシテ空ク腐朽傾頽ニ帰セシムルハ惜ムヘキ義ニ有之、之ヲ保存セントスルヤ即今一時大修繕ヲ加ヘ年々若干ノ修理費ヲ要セサルヲ得ス、然ルニ陸軍省ニ於テハ自今工事(事業)夥多ニシテ右等不急之費用其額中ヲ以テ支出難致ニ付、彦根城之例ニ倣ヒ年々別途御下給相成度旨ニ有之、則国費多端ノ際ニ付十分之御下付ハ難相成筋ニ付大蔵省上答之如ク予算額ノ凡半数御下付相成、其余ハ陸軍省経費内ニテ差繰支弁候様御指令相成可然哉、左按取調仰高裁候

御指令案

伺之趣名古屋姫路両城一時修繕費トシテ金七千五百円、年々修理費トシテ十二年度以降金千三百円宛其省経費増額可相渡候条、不足之分其他ハ其省経費内ニテ差操支弁致シ修理保存共担任可致事

大蔵省ヘ御達案

原文之通

〔「記録材料」議按簿二〕

十四　名古屋・姫路両城郭保存の儀につき再伺

防衛研究所図書館所蔵

送第三百三拾九号　太政官ヘ再応御上申按

名古屋姫路両城保存之儀ニ付再伺

当省所轄存城ノ内名古屋姫路ノ両城永久保存致度義ニ付、本年一月其状況概略開申何分之御詮議相伺候処、本月九日右両城一時修繕費トシテ金七千五百円、年々修理費トシテ十二年度已降金千三百円宛当省経費江増額御渡可相成、不足之分ハ当省経費内ニテ差繰支弁シ修理保存トモ担任可致旨御指令相成敬承仕候、抑該両城之義は最前上申候通其結構宏壮精巧他ニ比類無之、随而充分之修理ヲ加フル時ハ巨多之金額ニ相及候処、過般調査局ヨリ右修理費之義照会有之候ニ付精々節減為取調候処、名古屋城一時金壱万千九百九拾円余、年々金壱千円、姫路城一時金五千百四拾円余、年々金千六百弐拾円ニ至ル、右金額ハ両城屋蓋基礎其他腐朽傾頽等ニ関渉之箇所ヲ専ラ修繕シ永年保存之見込ニ有之、然ル処今般御下附可相成金員ニ而は何分永久保存ノ修理ヲ加フル目途難相立、且当省経費之儀ハ最前モ開陳候通定額金不足之際諸官廨幷兵営等止ムヲ得サル最急ノ箇所而已就工致候折柄該両城修繕金之不足ヲ補フ余額ハ勿論無之、然リト雖トモ本邦中屈指ノ両城ヲ後年廃毀ニ帰スル亦遺憾ニ不堪候間、何卒彼是御量酌特別之御詮議ヲ以テ両城修理費之義は曽テ調査局江差出候取調書ノ通一時幷年々増額御下附相成候様仕度、此段再応相伺候也

（明治）十二年七月

第四局長代理㊞
第五局長代理㊞

右は別紙送第三百三拾九号名古屋・姫路両城永久保存之為メ若干金増額御下附可相成御指令ニハ候得共、前文御上申按ニ述ル如ク工兵第三第四方面本署取調書金員ノ半額ニモ不至、何分永久保存ニ修繕差加ヘ候見込無之候間今一応御上申相成度、依テ前条之通御上申按申進候也

〔「陸軍省大日記」第四局〕

十五　名古屋・姫路両城郭修理費修正指令案

防衛研究所図書館所蔵

陸第三百八十七号指令案

伺之趣該金額之内金六千百五拾円別途可下渡候条一時修繕可取計、且尓後修理費之義は来十三年度より予算簿ニ記載可差出事

追而仕法計費図案取調更ニ上申可致事

（明治）十二年七月　　第四局長代理

調査局

十六　名古屋・姫路城郭修理費につき指令案

国立公文書館所蔵

明治十二年八月　　小池久以㊞

可
否

別紙陸軍省再伺名古屋・姫路両城保存方之儀過般御指令相成候金員ニテハ何分永久保存ノ目途難相立ニ付其時右金員ヲ以修理取斗候上ハ本年度中別段修繕を不致見込ニ付、右費用を合算シ本文之通御指令相成可然と存候、此段申出候也

〔「陸軍省大日記」第四局〕

陸第千七百三十二号指令案

書面該金額之内金弐千六百五拾円別途可下渡候条一時修繕可取計、且尓後修繕費之義は来十三年度より予算簿ニ記載可差出事

追而仕法計費図案取調更ニ上申可致事

十二年七月　　第四局長代理

節取調書之通金額御下付相成度トノ儀ニ有之候所、大蔵省ニ於テ最前上答ノ外支出ノ見込無之趣此両省ニ於テ流用ノ途無之上上答之次第ハ最前御照会之節省議ヲ尽シ候上金額支出ハ不得止義ニ付不充分ニハ可有之候得共本年ノ義ハ最前御指令ノ金額方及上答候儀ニ付此上他ニ支出之見込無之趣ニ有之、ヲ以相応ノ補理ヲ加ヘ来年度以降ハ年首予算ノ節何分ノ御詮議相成可右ハ経費増減ニ因リ両城保存之成否ニ相関シ候儀ニ付、然哉、左案取調大蔵省答議相添可否仰高裁候也

御指令案

伺之趣本年難聞届候条本年ノ義ハ最前指令ノ金額ヲ以相応ノ補理ヲ加ヘ来年度以降ノ義ハ年首予算ノ節経費猶可申出事

〔「記録材料」議按簿三〕

七七　姫路城郭一時修繕費につき指令案

防衛研究所図書館所蔵

陸第千七百三十二号指令案

伺出候趣一時修繕費トシテ金弐千六百四拾弐円別途可下渡ノ条仮成補理之見込を以仕法案等成規之通取調更ニ可伺出、且十三年度以后年々修繕費之義ハ別途ニ調分ケ予算簿ト共ニ上申可致事

明治十二年十月　　第四局長代理㊞
　　第五局長代理㊞

姫路名古屋両城修繕費之義一時金七千五百円本年度分金千三百円ト二様ニ区分下渡相成候処、今一時修繕を加フル時ハ最早本年度内ニ於テ修理費を不要ニ付、右金員束テ八千八百円を当面見込両城一時修理金高ヘ分割シ本文金額ニ相及申候、此段申進候也

〔「陸軍省大日記」第四局〕

(2)　鎮台分営の設置

七八　姫路城内に一中隊分の仮営舎

防衛研究所図書館所蔵

第三千〇七十八号

過ル八月三十日付与以□(ヲカ)迄ニ御達シ相成候歩兵三大隊召募之儀ニ付仮営専ラ取調中ニ御坐候、然ルニ相当之場所不自由ニテ甚心配罷在候、就而は大津営所之義未建築半途之儀ニは候得共歩兵第九聯隊之内一大隊之半方右営所ヘ差入、尚半大隊之義ハ京都幷ニ大津辺之内ニテ相当之寺院借受仮兵舎ニ取設差置申度候、右は兵舎繰合之都合有之相伺候義ニ付至急何分之御指揮被下度候也

明治七年九月八日　　陸軍少将三好重臣代理
　　陸軍中佐　河村洋与

陸軍卿宛

逐而昨六年九月廿九日第三百八拾九号ヲ以相伺同十二月十五日御指令相成候姫路仮兵舎一中隊分所営有之候間、第十聯隊之内一中隊同兵舎ヘ当分差入置申度、此段も添テ相伺候也

伺之通

〔「陸軍省大日記」諸鎮台伺届幷諸達　陸軍第一局〕

七九　姫路仮兵舎に第十連隊の一中隊移屯

防衛研究所図書館所蔵

第三千五百十号　黒四千百九十八号

去ル九月八日第五百三十号ヲ以相伺候書面追書ニ姫路仮兵舎ノ一中隊分所営相成居候間第十聯隊之内一中隊当分差入置申度云々之儀同十七日伺之通リ御指令相成候間今般転移申付候、然ルニ右兵舎之儀ハ従前旧姫路藩結(詰カ)兵屯所ヲ取繕候義ニ付仮設ながらも惣体板敷ニ相成居候間寝台之備付無之候而ハ難相叶、依而差懸候処当台在庫在来品之内ヲ以支給一時間ヲ合置申候間、早々御規則通御備付相成度、此儀御届申候也

(明治七年)十月一日　　陸軍少将　三好重臣

陸軍卿　山県有朋殿

書面之趣仮営之儀付在庫品ヲ似テ備付相済候ハ、別段新調備付ニ不及事　　十月十二日

〔「陸軍省大日記」諸鎮台伺届幷諸達　陸軍第一局〕

〈一〇〉 姫路城内兵舎新築請負人の募集

飾磨県布達

乙第弐百拾六号

記

一 兵舎　桁行弐拾八間四尺五寸　梁行六間

一 同断　諸建具一式　ヘン塗共

一 同断　諸木財(材)挽立賃

右は姫路城中ニ新築相成候ニ付請負方望之もの来ル八日迄ニ当地出張工兵第四方面第三園区へ罷出仕法書幷ニ絵図面等熟覧之上入札候様広ク可相達もの也

明治八年五月二日

飾磨県権令　森　岡　昌　純

右之通御達ニ相成候条此段及通達候也

〈一一〉 姫路城兵営建築につき伺

防衛研究所図書館所蔵

工兵第四方面ヨリ伺

(明治八年)本年四月廿四日附ヲ以テ姫路城兵営建築ニ付出張会計官ノ儀在勤ト更ニ被申付度伺出候処、五月三日陸第八百七十三号伺之趣会計官ノ儀ハ該地常務ニ服シ候者ニ無之建築中一時派出為致候儀ニ付出張ト可心得旨御指令有之致承知候、然ルニ兼テ御届申候通同所建築掛官員監護或ハ建築掛ト区別ヲ以テ申付候ニ付テハ、建築掛ノ名義ニテ派出為致候者ハ常務ニ不服建築落成ノ上引揚ケ候目途ニ候間則チ会計官同様一時派出ノ事ニ付勿論出張ト相心得可然被存候得共、為念此段一応相伺候也　五月廿二日

指令

伺之通

〔「陸軍省日誌」明治八年五二号〕

〈一二〉 歩兵第十連隊の編制と姫路転営

防衛研究所図書館所蔵

(明治九年二月十日分)大阪鎮台伺

本年定規之通賦兵徴募有之候ニ付テハ当台下諸兵ノ配布別紙之通兼テ編制仕置度候間何分ノ御詮議被下度此段相伺候也

別紙

(第一条・第二条　略)

第三条

歩兵第十聯隊本隊二大隊ハ姫路営所ニ転移スルヲ以テ、追テ同営所分遣隊派出セラルヽ迄ハ当分第三大隊ヲ大阪第二営(即チ元兵学寮)ニ置クモノトス、故ニ同隊転移以前第一第二大隊ヨリ七八両年ノ兵三分ノ一ヲ取リ予メ第二営ニ移シ、賦兵入営ノ時第三大隊ヲ編制スルノ基礎トス

(第四・五・六・七条略)

第八条

第一条第五条ノ都合有之候ニ付歩兵第十聯隊ノ儀ハ後備兵復習終ルノ後直ニ本隊ヲ姫路営所ニ転移為致、第三大隊ヲ第二営ニ被置度候事

(後略)

〔「陸軍省日誌」明治九年一三号〕

〈一三〉 歩兵第十連隊姫路転営につき人民心得

飾磨県布達

乙第百四拾号

今般陸軍省歩兵第十聯隊当地営所へ転移ニ付兵隊ト人民之間ニ於而紛紜之苦情相生候而ハ不都合ニ候条物品売買其他之事ニ付人民一般別紙之通堅ク可相心得、此段布達候事

明治九年四月十二日

飾磨県権令森岡昌純代理
飾磨県権参事　加　藤　治　幹

別紙

第一条　隊中下士兵卒総テ物品ヲ購求スルハ現金ヲ以可買取筈ニ付売主ニ於テモ他日苦情無之様一切掛売致間敷事

第二条　現金売渡之場合ニ臨ミ彼是異論申立候者有之節ハ其者ト同伴スルカ又ハ其姓名ヲ尋問シ直ニ当営所或ハ区戸長ヘ届出区戸長ヨリ其段営所又ハ県庁ヘ可申出事

第三条　下士兵卒ト人民ト之際ニ於テ金銀借貸ハ一切禁止之事ニ付人民ニ於テモ貸付候義ハ一切不相成候事

第四条　下士兵卒官給品(武器帽衣服靴毛布ノ類)ヲ私ニ典売致候

義ハ厳禁之事ニ付人民ニ於テモ右品物一切買取
等不相成事
第五条　隊中之者娼妓ト遊宴致候義ハ禁止之事ニ付
右渡世之者共ニ於テモ隊中之者ト見受候節ハ一
切引受申間敷事
第六条　夜中等時ナラス休泊ヲ乞フ者アル時ハ其免
状之有無ヲ取調免状無之者ハ速ニ区戸長又ハ当
営所ヘ可届出事
但区戸長ニ於テハ第二条之如ク可取計事

〇四　姫路営所ヘ入営兵割り当て

飾磨県布達

乙第七拾四号

各区々戸長

当県下本年徴兵当籤之者共来る四月廿六日無遅滞各営所ヘ入営可為致別紙入営表相添此旨布達候事
但左之者ヘ附添総轄申付置候条都て同人ヘ打合せ可申事
明治十年三月廿日　兵庫県権令　森　岡　昌　純

摂津国
大坂鎮台ヘ附添　第十四区々長　紫合左一郎
伏水営所ヘ附添　第十五区々長　奥野佶次
姫路営所ヘ附添　第二区副区長　松井吉兵衛
兵庫営所ヘ附添　第十二区伊丹町副戸長　徳永治平

丹波国
大坂鎮台ヘ附添　第三四大区副区長　我妻助補
伏水営所ヘ附添　第二大区副区長　岩勉
姫路営所ヘ附添　第三四大区副区長　平野守安
兵庫営所ヘ附添　第一大区副区長　中山政良

但馬国
大坂鎮台ヘ附添　第三大区副区長　弓削究
伏水営所ヘ附添　第八大区副区長　間中藤雄
姫路営所ヘ附添　第一大区副区長　並河邦彦
兵庫営所ヘ附添　第七大区副区長　中西傭

播磨国
大坂鎮台ヘ附添　第五大区二小区々長　角田義和
伏水営所ヘ附添　第一大区二小区々長　朝原文吾

姫路営所ヘ附添　第十六大区二小区々長　安原胎之
兵庫営所ヘ附添　第八大区一小区々長　野口弐貫

淡路国
大坂鎮台ヘ附添　第二大区三小区戸長　山下勲
伏水営所ヘ附添　第一大区二小区戸長　千葉如酔
姫路営所ヘ附添　第二大区一小区戸長　石井一作
兵庫営所ヘ附添　第一大区八小区戸長　藤井又四郎

入営表

大坂鎮台大坂営所ヘ入営
歩兵　二百四拾七人
但第三百四拾五番より第五百九拾一番迄
工兵　二拾四人
輜重兵　五　人

伏水営所ヘ入営
歩兵　百七拾二人
但第一番より第百七拾二番迄

姫路営所ヘ入営
歩兵　百七拾二人
但第百七拾三番より第三百四拾四番迄

兵庫営所ヘ入営
砲兵　五拾人

〇五　姫路営所火薬庫新築につき伺

防衛研究所図書館所蔵

工六号　陸第千□

第九営附属火薬庫新築之義ニ付伺

一金八百四拾九円

右第九営附属火薬庫之義ハ姫路城内在来土蔵ヘ修理ヲ加ヘ用来候処、其位置タル該城東北ノ偏隅ニシテ営所より紆回該所ニ至ルノ道程凡五丁余ヲ距ル、故ニ取締向不都合ハ勿論、城濠ニ接近加フルニ低地ナルヲ以テ地質湿気ヲ帯ヒ火薬格納ニ適当セス、既ニ昨年検閲使御巡回之節位置変(ママ)按之義御指示之趣も有之、然ルニ同城内西丸ト唱フルノ個処ハ地質尤乾燥至極適当候ニ付、御成規之通御新築相成候様仕度、別紙入費積書幷図面共相添此段相伺候也

追テ本文御許可ノ上ハ当方面定額営繕費ノ内より仕払候様仕度、尤会計年度ニ切迫仕候ニ付テハ工業(事カ)竣成ニ至ラズト雖トモ竣成迄ノ諸費等ハ兼テ本月中決

算可仕候、此段添テ申進候也

（明治）十年六月十一日　工兵第四方面提理代理　陸軍大尉　谷　邨　猪　介
陸軍卿代　陸軍少将　井　田　譲殿

伺之通　六月廿三日

但追書費額之義ハ伺之通、決算之義ハ本年八月中落成決算可致事

（「陸軍省大日記」砲兵本支廠工兵各方面之部）

六　西ノ丸内土蔵を弾薬庫武器庫に変換の伺

防衛研究所図書館所蔵

工七百六十二号　陸第千六百四十九号

姫路城内在来土蔵修理変換之上弾薬武器之両庫ニ御取設相成度儀伺

一金三百三拾円
内
金弐百四拾三円　在来倉庫弾薬弾薬（衍カ）庫ニ変換入費
金　八拾七円　同武器庫ニ変換入費

右は第九営付属弾薬庫未タ御設備無之ニ付火薬庫内江仮ニ区域ヲ設ケ格納有之来候処、該庫之儀ハ在来土蔵ヲ以テ火薬庫之体裁ニ変換スルモノニシテ其位置タル城濠ニ接シ地質湿気ヲ帯ヒ火薬格納ニ適応セス、故ニ御成規通御新築相成度段伺出御許可之上現今建設方仕業中之処、今亦弾薬庫御建設相成時ハ巨多之入費ヲ要シ候ニ付精々入費減殺之見込ヲ以テ取調候処、今般火薬庫御新築之旧西ノ丸ト唱フル場処別紙甲図在来土蔵乙図ノ通修理変換之上其用ニ充ル時ハ入費ノ減少ハ勿論地質高燥ニシテ全極適当之地ニ有之、尚又武器庫之義ハ営門外練兵場ヲ経テ後備軍本部内在来建家応用相成来候処、四周往還ニ接シ不取締ハ勿論右建家タル頗ル麁造ニシテ永久保存之見込無之ニ付、是亦西丸内別紙丙図在来土蔵丁図之通修理変換ノ上御充用相成候様仕度、然ル時は地質其当ヲ得ルハ勿論営中江之便宜且取締向モ至極堅固ナルヲ以テ右両様共御允許相成候様仕度、別紙入費積書相副此段相伺候也

追而本文御許可之上は該営エカーヘル備付入費残金之内ヲ以テ仕払候様仕度此段モ副テ相伺候也

明治十年七月廿五日　工兵第四方面提理代リ　陸軍大尉　谷　村　猪　介
陸軍卿代リ　陸軍少将　井　田　譲殿

（朱書）伺之通

但避雷柱ノ長サハ地上成規ヨリ三尺増シ中央相当之位置ヲ選ミ壱本建設可致候、決算ハ本年九月三十日限リト可相心得候事

八月十日

（「陸軍省大日記」砲工兵方面）

(3)　城郭内居住士族の立ち退き

七　姫路城内居住の者立ち退かせの儀につき伺

国立公文書館所蔵

姫路城内居住之者為立退之儀ニ付伺

全国中陸軍所轄存城内従来居住人民之儀、去ル明治六年一月十四日改メ当省管轄被　仰出候当時城郭内従来住居之地所は追而当省より引払方相達候迄は住居不苦候間総而拝借地ト相心得収税取計大蔵省江可相納旨、同年二月十四日付ヲ以存城包轄セル府県江相達置候次第も有之、其後城内入用之ケ所は住居人引払方内務省江遂協議漸次返戻地受取居候、然ル処去ル八年十月四日附ヲ以屯営所練兵場等買上候節は当省定額之内ヲ以テ支弁可致旨云々御達シ有之、猶又同年十二月五日付内務省伺出（広嶋城内遷喬社買上之件）ニ付本年二月十八日同省に御指令之趣ニ依テ昨年来引払方照会ニ及置候姫路・広嶋両城内士民引払換地移転料等一切当省より支弁可致旨今般内務省より掛合越候処、抑八年十月四日付之御達

は是迄当省所轄地之処分ニ非スシテ全ク今後民有地買上之御定規ニ有之候様被存候、内務省より掛合越候趣ニテハ従前より之所轄地ニシテ人民江貸渡置タルモノヲ返戻致サスルト今後新ニ人民より買上ルモノトヲ論セス一般ニ十月四日之御達ニ基キ換地代価移転料等総而当省より支給可致筋ニ相聞甚不都合ニ被存候、将タ是迄佐倉・名古屋・丸亀・高崎・新発田・小倉等之城郭所用之節は内務省に掛合及候而已ニテ居住之士民引払ハセ換地移転料共総テ当省ニ於テ支給致候事無之候ニ付、昨年七月より本年六月迄之予算中ニモ右等之分ハ故ニ引当不致置候間、仮令当省費額之内ヲ以支給可致御定議ニ有之候共右費用ハ予算外別途ニ御渡相成候外支弁之途難相立、尤モ別途ニ相立御払出ニ候ハヽ、右ニ関スル分等は従前之通内務省ニ於テ取計、今後新ニ民有地ヲ買上候分ハ当省ニ於処分致候様御決定相成度、右は前両城之外諸所ニ於テも差迫リ候儀有之、且ツ又本年予算之都合有之至急何分之御指揮有之様致度、仍而別紙内務省ヨリ差越候書類之内適要ノミ相添此段相伺候也

明治九年三月十五日　陸軍卿山県有朋代理　陸軍大輔鳥尾小弥太

太政大臣三条実美殿

飾庶二号

飾磨県管下姫路城内ニ於テ歩兵二大隊営附属練兵場并射的場御設置ニ付、右城内居住之者共早々立退之儀其筋江可相達旨昨八年十月十二日付ヲ以御照会ニ付、手筈相運次第可及御確答旨先般不取敢及御回答、依テ飾磨県江其旨別紙甲号之通相達、該県より別紙乙号之通地価移転料其他取調代価請取方上申相成居候処、右費用は御省定額金之内ヨリ支給之筈別紙丙号之通今般正院御指揮有之候ニ付、該県へは別紙丁号之通相達候間則該県上申書壱通別冊取調書絵図面等一号より六号迄及御送付候条、御調査之上代価御下渡有之度、然ル上は支障之儀無之候条此段及御照会候也

明治九年二月廿四日　内務卿大久保利通

陸軍卿山県有朋殿代理　陸軍大輔鳥尾小弥太殿

甲号(欄外)　飾磨県

其県下姫路城郭内於陸軍省今般歩兵営付属練兵場設置候ニ付、別紙図面朱線内居住之者為引払候様同省ヨリ掛合越候ニ付此旨相心得、代地之儀官有地之内ニテ相渡、不足之分は地代金下与可致積ヲ以現住地近傍比較之地価及移転料坪数等壱人別詳細取調図面相添至急可申出、此旨相達候事

明治八年十月廿九日　内務卿大久保利通

乙号(欄外)

姫路城郭内居住之者引払ニ付地代金

移転料等御下付之義ニ付上申

一金五万五千五百七拾円四拾九銭八厘

内

金壱万六千六百七円五拾八銭弐厘　地代金

金三万七千五拾壱円九拾壱銭六厘　建物移転料

金千九百拾壱円　家具運搬并井戸掘料

〆如高

当県下姫路城郭内今般歩兵営付属練兵場設置ニ付御下付相成候図面朱線内居住之者引払、代地之儀ハ官有地之内ニテ相渡、不足之分ハ地代金下与可致積ヲ以現住地近傍比較之地価及移転料坪数等一人別詳細取調図面相添至急可申出旨、十月廿九日付御達之趣承知仕候、然ル処姫路近傍ニ於テハ官有地無之候、依之現住地近傍第八大区第一小区山野井村初六ヶ村上中下畑売買平均壱反代価取調候処別紙第一号之通ニ有之、右代価ヲ以現住之地坪ニ応シ悉皆代金ニテ御下与相成度、就而は移転之儀ハ右村々へ移住スル者ト見做シ其筋職業之者ニテ移転料為積候処、別紙第二号之内初筆低価之分本家土蔵平均壱坪ニ付金三円九拾壱銭、物置門長屋湯殿等ハ平均壱坪ニ付金弐円ニ有之、然ル処本家建坪悉皆右代価ヲ以算出候而ハ大ニ御費用相嵩候間彼是参酌及ヒ本家弐拾五坪迄ハ前書三円九拾壱銭、其余之建坪ハ物置同様金弐円之積ヲ以計算致シ候、尚又家具運搬

及ヒ井戸堀料トシテ平均壱戸ニ付金七円宛御下与相成度、右ハ御達外之儀ニは候得共当今物価騰貴之折柄疲弊之士族自費ヲ以弁シ兼差向難渋之趣ニ相聞候間特別之御詮議ヲ以前陳之通御許可相成度、依之別紙第三号総画図壱枚、第四号詳細取調帳壱冊、第五号壱人別鹿図面三百三拾四枚、第六号家具運搬幷井戸堀料取調帳壱冊差添此段上申仕候、尤練兵場設置不遠着手之趣ニモ候得は早々渡方取計各自速ニ為引払候様仕度候間至急御指令相成候様仕度候也

但明細帳之内各自姓名肩書屋敷番号一番より順次ニ可認筈之処不順ニ相成候得共、認替候而は至急之運ヒニ至リ兼候ニ付不順之儘進達仕候、且総絵図面之内士族屋敷ニテ狭少之分ハ別ニ菜園地ヲ給与シ来候ニ付此分ハ朱書ヲ以別ニ番号ヲ付置候間右ニテ御照合被下度、尚又壱人別鹿絵図ノ儀ハ凡弐分壱間ノ積ヲ以相調候得共急遽之間図引仕候義ニ付自然伸縮モ可有之候、右之件々宜敷御聞置被下度此段モ併テ上申仕候也

明治八年十二月廿四日　　飾磨県権令森岡昌純代理
飾磨県参事　岡崎真鶴

内務卿　大久保利通殿

丁号（欄外）

飾磨県

其県下姫路城内於陸軍省練兵場射的場設置ニ付右郭内居住之者引払ニ付地価移転料其他取調書昨八年十二月廿四日付ヲ以上申之所、此等之費用ハ尓来陸軍省ヨリ支給之筈ニ付右上申書及取調書共右同省江送付、代金下渡之儀及通知候条同省江請取方可申出、此旨相達候事

但処分済之上詳細可届出事

明治九年二月廿四日　　内務卿　大久保利通

〔「公文録」明治九年五月陸軍省伺〕

〈八〉 陸軍省伺に対する太政官決定

国立公文書館所蔵

（日下部）（金井）（田口）
印　印　印

明治九年三月廿二日　同廿七日決　同廿八日来

（三条）（岩倉）
大臣　印　印　　第五科　印

参議　（大久保）印　（木戸）印　（大木）印　（中村）印

卿輔　印　印

陸軍省伺姫路城内居住之者為立退費用之儀審按候処、別紙参照ニ供スル昨八年十月四日同省ヘ御達書中屯営所練兵場等買上候節ト而已有之候故姫路其外存城内居住之人民移転料等ハ額内ヨリ支出可致筋ニ無之与之申出ニ候得共、右地所ハ存城ニテ官有タルカ故今般更ニ買上候次第ニ無之ト雖モ、右地所同省ニ於テ所用之故ヲ以居住之人民為立払候儀ニ有之候得ハ右入費ハ勿論同省経費中ヨリ仕払当然之筋ト被存候間、左之通御指令相成可然哉左按取調相伺候也

御指令按

伺之趣昨八年十月四日達書中ニ存城内居住士民移転料等明文ハ無之候得共、一周年経費確定之上ハ右等之類ト雖モ其省経費中ヲ以仕払（長）候儀ト可相心得事

明治九年三月二十八日　印

参照

明治八年十月四日陸軍省ヘ御達

本年七月ヨリ九年六月マテ一週（周）年費額之儀は歳入予算ニ基キ各庁ヘ分賦候儀ニ付右金額ヲ以テ一切取昨、此上増費ヲ要シ候儀無之様可致、且自後屯営所練兵場等買上候節モ右額金ノ内ヲ以一切支弁候儀ト可心得、此旨相達候事

〔「公文録」明治九年五月六月陸軍省伺〕

〈九〉 城内居住の者換地代金支給につき再三伺

国立公文書館所蔵

当省所轄存城内居住之者立払換地代金支給之儀ニ付再三伺

当省所轄地之内当分其地士民ヘ貸渡置候姫路・広嶋両城地之内今般入用之ケ所取払ハセ候付テハ右換地代等ハ当省費額之内ヨリ支給可致旨先般内務省ヨリ掛合越候趣ハ有之候得共当年度ノ予算外ニ付払方難相立、依之別途御下渡相成度旨四月十三日再応上請致候処、同

月二十二日伺之趣難聞届候条当年度経費金ヲ以テ仕払難相成儀ニ候ハヽ、本年七月後之経費ニ相立仕払可申旨御指令之趣了承仕候、然ル処右ハ既往之払方ニ有之本年七月後将来之予算ニ可組込事項共難相心得、旁大蔵卿ヘモ遂示談候処右金額ハ何レニモ別途可仕払筋ニ候得共必竟本年七月後之経費ニ不相立候テハ差閊之廉モ有之哉之趣ニ候、就夫従前右等仕払方之儀ハ総テ於内務省処分致候儀ニ付今般当省ヘ御指令之趣モ内務省ヘ御下令相成於同省仕払候ハヽ、適当ト相考候付、尚御評議之上何分御指令相成度、此段再三相伺候也

明治九年五月四日　陸軍卿　山　県　有　朋

太政大臣　三　条　実　美殿

（欄外）「取消」

明治九年五月六日

大　臣　　（日下部）㊞

参　議　（大久保）（寺島）㊞㊞㊞　　（男爵）㊞

第五科　（作間）㊞　（井上）㊞

大　史　（中村）㊞

卿　輔

別紙陸軍省再三伺姫路・広島両城内居住ノ者移転ニ付換地代金支出方ノ件、同省縷述ノ趣ニテハ右事項ハ将来ノ予算ニ可組入筋ト難相心得、然ルヲ別途御渡方不相成儀ニ有之候ハヽ、右等ノ儀ハ従前内務省ニ於テ取計来候ニ付同省ヘ仕払方御下命相成度トノ趣ニ候得共、右等ノ類従前内務省ニ於テ支出取計来候ハ当時経費予算規則御制定前ニシテ全ク権宜ノ処分ニ出テ候儀ニ付、尓来各庁経費支出ノ分界被相定候上ハ陸軍省所用ノモノヲシテ之ヲ内務省ヨリ可仕払理無之候間、伺之趣御採用無之最前御指令ノ通可相心得旨御下命相成可然哉、仰高裁候也

御指令按

伺之趣難聞届候条最前指令之通可相心得事

五月十五日来㊞㊞　（日下部）（金井）

明治九年五月十一日　同十三日決

大　臣㊞　（三条）

参　議　（大久保）（大隈）㊞㊞㊞

第五科　（男爵）㊞　（井上）㊞

大　史　（中村）㊞

卿　輔

別紙陸軍省再三伺姫路広島両城内居住之者移転ニ付換地代金支出方之儀ハ先般云々御指令ノ旨モ有之候処右ハ既往ノ経費ニシテ本年七月以降ノ予算ニ難相立趣、去迚テ之ヲ内務省ヨリ為仕払候テハ事務ノ順序ニ於テ不都合之儀ニ付、非常予備金ノ内ヨリ別途御渡可相成積ヲ以左之通御指令相成可然哉、此段相伺候也

御指令按

伺之趣此度限別途下渡候条金額取調更ニ可申出事

明治九年五月十五日㊞　（長）

姫路広島両城内居住之者為立払換地代等御下渡方之義ニ付上申

当省所轄姫路広島両城内一時不用之ヶ所当分其地居住之者ヘ貸渡置候地所為取払候付、換地代移転料等之義（儀）屢相伺候末本月十五日御指令之趣致了承候、依之別紙内務省ヨリ相廻シ候金額取調書進達致候間於同省支給候様御下令相成度、此段申進候也

明治九年五月三十日　陸軍卿　山　県　有　朋

太政大臣　三　条　実　美殿

内務省調査金高之書抜

一高金拾万千三拾円六拾九銭壱厘

但姫路広嶋両城内士民換地代移転料等之合金

内訳

金五万五千五百七拾円四拾九銭八厘　姫路城内

金四万五千四百六拾円拾九銭三厘　広嶋城内

右詳細之儀ハ内務省ヘ御下問相成度奉存候也

同日来（谷森）（日下部）（田口）㊞㊞㊞

明治九年六月三日　同十九日決

大　臣㊞（三条）

参　議　（寺島）（大木）㊞㊞㊞

第五科　（作間）㊞

大　史　（中村）㊞

卿　輔

陸軍省上申姫路広島両城内居住之者為立払換地代等御渡方之儀審按候処、右両城内居住之者為立払候者同省

所用ニ起リ候儀ニ付、該費ハ同省ニ於テ支給不致候テハ経費分界不相立精算上不都合之儀モ有之候間、左之通御指令相成可然哉相伺候也

御指令按

上申之趣ハ金拾万千三拾円六拾九銭壱厘其省ヘ別途下渡候条大蔵省ヨリ請取支給方可取計事

明治九年六月十九日㊞

大蔵省ヘ御達按

別紙陸軍省上申姫路広島両城内居住之者為立払換地代等之儀、朱書之通及指令候条非常予備金之内ヲ以金額渡方可取計、此旨相達候事

明治九年六月十九日㊞

〔「公文録」明治九年五月六月陸軍省伺〕

八〇　姫路城郭内居住士族の嘆願書

国立公文書館所蔵

拝借邸地之儀ニ付歎願

私共邸地之義(儀)ハ旧姫路藩之比受領地ニ御座候処、其後明治六年十二月中城内邸地之義ハ渾テ陸軍省御所轄地ト相成更ニ邸地御受証ヲ奉差上尓後年々地租金上納罷在候、然ル処明治九年中城内住居之者邸地陸軍省御用地ト相成御取払之砌夫々若干之地代引払料等下賜候趣、其際私共邸地之義ハ依然御据置相成、同年三月廿九日之御達ヲ拝承仕何時御取払モ難計ト覚悟罷在候処未タ其御運ニモ不至、漸々家屋ハ朽損シ軒傾キ候得共補繕も不加僅ニ雨漏之防キヲ尽シ居候現状ニ御座候、就テハ方今之時節柄各自将来活計之目途ヲ相定メ農商業ナリトモ相営度ト思考仕候者ニ至リ此儘罷在候テハ不便不少、去迚至便之地ヲ要し移転致ス資力ニハ乏敷実ニ当惑之次第ニ御座候、将タ城外住居之士族ニ至リテハ従前受領地之儘沽券御下附ニ相成曾城内外之区別ニ依テ大ニ幸不幸之事ニ御座候、先ニ御取払相成候者ハ賜金ヲ以今ハ私有之地ヲ購シ城内残居之者ニ至リテハ其義能ハス、然レトモ上ニ何分之御含も可被為在御義と奉存候得共出格寛大之御恩典ヲ以テ各自目的ヲ相立他方ヘ罷越候節相当之地代幷ニ移転料等可下賜歟、又ハ御所轄外之義ニ付如何トハ奉存候得共邸地此儘沽券御下附相成候歟、何レ成共特別之御詮議ヲ以テ公平之御処分被成下候様仕度、一同連名ヲ以テ此段奉歎願候、以上

明治十一年三月二日

兵庫県士族
播磨国第八大区一小区清水居住
海老沢　廉

（人名二九名省略）

兵庫県士族
播磨国第八大区一小区市ノ橋居住
後閑弥平次代　矢島　百

同上桜町居住　大河内　貞造

同市ノ橋居住　加藤　武彦

（人名二〇名省略）

同上桜町居住　浅井　洌

（人名六名省略）

同上大名町居住　亀井　麻次郎

（人名二一名省略）

同小桜町居住
杉山裁吉代　松原　勝行

（人名二七名省略）

同上桜町住
戸長　針谷九郎兵衛

同小桜町戸長　林　織七

前書願出候ニ付奥印仕候也

明治十一年四月八日

副区長　星野高朗

兵庫県権令　森岡昌純殿

〔「公文録」明治十三年二月内務省〕

八一　姫路城郭内居住士族邸地につき兵庫県内陳

国立公文書館所蔵

姫路城郭内住居ノ士族邸地ノ義(儀)ニ付上申

当県士族姫路城郭内住居ノ者数名ヨリ邸地ノ儀ニ付別紙之通願出其顛末無余儀相聞候間、爾来ノ沿革ヲ追覧現時ノ事態ヲモ推考退テ反覆審案致候処、抑旧藩々士族邸地ノ儀ハ去ル明治五年租税寮達東京府下地券規則第四条賜邸ノ分ハ更ニ地代金ヲ取立スト雖トモ其坪数ヲ改メ其近傍払地代等ニ比較シ地券高取極メ従来ノ持主ヘ可相渡事ト有之、右ハ一般士族ノ旧藩主ヨリ受領スルノ邸地ヲシテ依然其私有ノ権理ヲ授与セラレ候原起ニ可有之、其後明治六年ニ至リ各城存廃ノ別ヲ定メ

ラレ候時ニ方リ存城ハ陸軍省ヘ属セラレ郭内住居ノ者共ハ其邸地ヲ当分拝借地ト定メラレ、既ニ姫路城郭内住居ノ者共ヨリハ邸地拝借請書差出年々若干拝借料昨十年迄上納、今日ハ其住居ノ地ニ係ル区費出金、爾来大略凡ソ右ノ如ク、又現時ノ事態ヲ推考スルニ士族一般ノ疲弊ハ敢テ喋々ヲ要スル迄モ無之、前数名者今日住居スル家ノ為体ヲ視ルニ檐傾キ瓦破レ壁落チ墻仆ル、モコレヲ修理スルノ念ナキモノヽ如シ、之レ資力乏キニ出ルト雖トモ右ハ何時立退ノ命アルヤノ顧念ヨリ来スモノニテ私有物ヲシテ其保護ヲ欠ク如斯、敢テ投却スルニアラサルモ畢竟其目的ナキニヨル、元来彼等ノ私権ヲ失スルハ自己ノ変転ヨリ生スルニアラスシテ屈伸自在ヲ得サルハ制度ノ然ルヨリ来スモノニテ、一般ニ比較スレハ地券規則第四条ニ当ルノ権ハ其位置ニヨツテ之レヲ失シ、又咫尺ノ間ニ於テ並視スレハ昔日移転料其他若干円ヲ賜リ自由ノ地ニ転シ私権ノ伸暢ヲ得ルモノト其幸不幸ロヲ同シテ語ルノ類ニ無之、素より好テ借地ヲ要請スルニアラス、従来私有ノ地トスルモ制度ノ変遷ヨリ今日ノ次第ニ至リ、規則アツテ資力共ハ其邸地ヲ当分拝借地ト定メラレ、既ニ姫路城郭内住居ノ者共ヨリハ邸地拝借請書差出年々若干拝借料昨十年迄上納、今日ハ其住居ノ地ニ係ル区費出金、爾来大略凡ソ右ノ如ク、又現時ノ事態ヲ推考スルニ士族一般ノ疲弊ハ敢テ喋々ヲ要スル迄モ無之、前数名者今日住居スル家ノ為体ヲ視ルニ檐傾キ瓦破レ壁落チ墻仆ル、モコレヲ修理スルノ念ナキモノヽ如シ、之レ資力乏キニ出ルト雖トモ右ハ何時立退ノ命アルヤノ顧念ヨリ来スモノニテ私有物ヲシテ其保護ヲ欠ク如斯、敢テ投却スルニアラサルモ畢竟其目的ナキニヨル、元来彼等ノ私権ヲ失スルハ自己ノ変転ヨリ生スルニアラスシテ屈伸自在ヲ得サルハ制度ノ然ルヨリ来スモノニテ、一般ニ比較スレハ地券規則第四条ニ当ルノ権ハ其位置ニヨツテ之レヲ失シ、又咫尺ノ間ニ於テ並視スレハ昔日移転料其他若干円ヲ賜リ自由ノ地ニ転シ私権ノ伸暢ヲ得ルモノト其幸不幸ロヲ同シテ語ルノ類ニ無之、素より好テ借地ヲ要請スルニアラス、従来私有ノ地トスル

夫レ治道ノ要トスル急ヲ先ニシテ不急ヲ後ニシ急緩相待テ其宜シキヲ求ムルニアラサレハ其美ヲ視ルニ至ラス、陸軍省用地貸渡規則第一条目下不用ノモノヲ活動シ一時ノ権宜ヲ以テ貸地ニ附シタルモノナレハ云々トアルニ就テ思考候得ハ、今城郭内ニ在ル士族住居地ノ如キ急ヲ要スルノ地ナラサルハ判然、既ニ昔日数戸引払跡地ノ如キモ今日ハ蔓草繁茂茫々タル曠野ニシテ径路ヲモ分タサルモノ、如ク是マタ其無用ヲ徴スルニ足ル、万一国家非常ノ変アラハ何ソ同省所轄ノ内外ヲ論セン、至ル処其用ニ供スル勿論ニ候得ハ、平素ニ在テハ其要ト不要急ト不急分別シ与フヘキハ之ヲ与ヒ奪フヘキハ之ヲ奪ヒ人民ヲシテ其居ニ安シ其緒ニ就カシメ屈伸自在ヲ得セシムル政治ノ宜シキモノニ可有之、尤陸軍省達中従来城内借地住居受領地ノ証アル邸地ニ限リ追テ同省所用取払ハセ候節ハ特別ノ訳ヲ以テ実際査覈ノ上地方官管轄官有地（官有地無之地方ニ於テ換地代金）其他転徙手当トモ相当附与可致筈云々ト有之、之レニヨリテ視レハ今日住居ノ者共他日御用ノ期ニ至リ候ハヽ、賜金可有之候ヘ共、目途ナク資力ナクシテ期スヘカラサルヲ期シ為メニ一躓セハ忽チ百廃ヲ来スハ必然、畢竟スル所其居ニ安スルノ目途立タサルヨリ百端之レニ基ヒシ奮起スルヲ得サルハ中人以下ノ通情ニシテ実ニ如何トモスヘカラサル目下ノ情況如斯、前書縷々ノ顛末深ク御洞察御両省於テ別途格段ノ御談議ヲ被尽数百余名ノ者共其居ニ安シ屈伸自在ヲ得ルノ御処分有之度、別紙願書及ヒ絵図面相添此段上陳致候、小官竟見ノ要旨ハ別紙ヲ以及内陳候間夫是御参考何分ノ御下命仰望仕候也

明治十一年五月廿日

兵庫県令森岡昌純代理（権脱カ）
兵庫県少書記官　原　保　太　郎

内務卿　伊　藤　博　文　殿
陸軍卿　山　県　有　朋　殿

姫路城郭内住居之士族邸地御所分之儀ニ付内陳

姫路城郭内住居之士族邸地之儀ニ付出願之趣顛末無余儀相聞候間、御両省ニ於テ別途格段之御詮議ヲ以テ数

百余名之者共其居ニ安シ屈伸自在ヲ得ルノ御処分有之度段別紙ヲ以テ縷々具陳仕候通、猶御処分方ヲモ彼是審案致候処明治十年七月陸軍省送第三千八百八号御達但書ニヨレハ此地御用之節ハ相当之賜金可有之、果シテ然ラハ其帰スル処此地ニ幾莫歟消費セサレハ御用弁不相成モノニテ唯支出ニ遅速アル迄之事ニ候得ハ、此際非常之御詮議ヲ以テ数名之者目今住居之地域ヲ区画シ夫々ノ順序ヲ尽シ、一旦官有地第三種ヘ組替更ニ民有地第一種ヘ編入、明治五年租税寮達シ東京府下地券規則第四条ニ準拠各人ヘ地券ヲ附シ私有権ヲ与ヘ候ハヽ、何レモ感戴甘受其居ニ安シ屈伸自在ヲ得ルノミナラス、将来ヲ奨励漸次其緒ニ就カシムルノ端緒ヲモ得ルニ至ル可シ、他日陸軍省御所用ニ際スルアラハ其時ニ方リ御買上相成候共其費途名称ノ異ルマテニテ当時之御所用ニ於テ差支モ有之間敷、右ノ如ク御処分相成候ハヽ、不用ヲ活動彼是其当ヲ得目下費ス所ナク両弁ニ可有之、規程ノ枉ク可カラス法則ノ犯スヘカラサルハ万々拝承候得共、別紙縷述之趣共深ク御洞察御両省於テ非常之御協議ヲ以テ前意御採納相成候様致度、因テ意見内陳仕候也

明治十一年五月廿日

兵庫県権令森岡昌純代理
兵庫県少書記官 原 保太郎

内務卿 伊藤博文殿
陸軍卿 山県有朋殿

〔「公文録」明治十三年十一月内務省一〕

六三 姫路城内居住士族邸地処分につき調査局意見

国立公文書館所蔵

全国存城郭内居住士族邸地現今貸地ト相成居候分取調可申進御照会之趣致承知候、即チ別紙之通有之候間右ニ而御了承相成度、此段及御回答候也

明治十二年十月廿九日　陸軍歩兵大佐 浅井道博印

太政官調査局
御中

追而別紙之外松江城丸亀城厳原城内ニ居住之士族有之候処、右ハ現今取調中ニ付追而可申進候也

全国存城内居住士族邸地積及戸数取調

城郭名称	地面積	戸数
秋田県下 秋田城郭内士族邸	弐万五千百七拾壱坪 八合（付箋「於内務省ニ処分中」）	七拾壱戸
兵庫県下 姫路城郭内士族邸	四万七千五百九拾五坪 〇四勺	百五拾九戸
三重県下 津城郭内士族邸	弐万壱千六百五拾六坪 八合九勺	四拾三戸
愛姫県下 宇和島城郭内士族邸	弐万〇六百九拾壱坪 九合五勺	百六十戸
広島県下 広島城郭内士族邸	九万七千百三拾八坪 九合八勺	三百四拾五戸

別紙内務省伺姫路城内居住士族邸地所分之儀調査候処左之次第ニ有之候

姫路城ハ全国存城之一ニシテ曩ニ大坂鎮台分営ヲ被置候節、城内士族陸軍省所用地線内ニ居住之輩ヘハ地所買上家作移転料相渡シ、所用地線外之士族ハ現今モ猶拝借地之名義ニ相成居、一城内居住ノ士族ニシテ甲乙幸不幸ヲ生シ候ニ付現住士族連署致シ一様ノ処分相成候様歎願致候次第ニシテ、其戸数坪数左ノ如シ

戸数百拾弐戸
坪数四万八千八百弐拾弐坪弐合

内務省見込

第一一城内居住士族ニシテ甲ハ已ニ地代及移転料共給与シ乙ハ之ニ反シ借地ノ名義ニテ地券モ附与セス人々仮住ノ思ヲ為シ安堵生計ヲ営ムヲ得ス愍然之至ニ付即今陸軍省ニ於テ所用無之候ハヽ、地券ヲ附与シ各其堵ニ安セシメ度

第二若シ地券ヲ附与スル儀陸軍省ニ於テ差支候ハヽ、不得止先頃御許可相成候秋田城内居住士族

内六百五十八号　（作間）印

明治十二年十一月四日　十三年二月廿七日来印

内閣書記官（中村）印（金井）印

内務省伺姫路城内居住士族邸地処分ノ事調査局勘査進呈ス依テ回議ニ供ス

大臣（岩倉）印　印　印
参議（大隈）印（大木）印（有朋）印（寺島）印　印

明治十二年十一月一日

調査局（作間）印

同様相応之地代及移転料御下渡相成度

右ニ付調査局ニ於テ審按候処姫路城内現住士族困難之情況ハ県官具申書ニモ縷々記載有之実ニ不堪想像、因テ推考スルニ独姫路城内士族ノミナラス他存城内居住士族ニ於テモ其堵ニ安セサル情況ハ同様ニ可有之、其未タ歎訴セサルヲ幸トシ可捨置事ニ無之ニ付全国存城内居住士族地坪戸数陸軍省ヘ問合候処津、宇和島、広島、三城ノ分左ノ通ニ有之候

地坪拾三万九千四百八拾七坪八合弐夕

戸数五百四拾八戸

右ノ外松江城丸亀城厳原城ハ現今陸軍省取調中ナリ

抑存城内士族ニ地券ヲ附与スル儀陸軍省ニ於テ差支候儀ハ秋田城内士族邸地処分之節同省ノ申立モ有之、其主意タルヤ一城内士族ノミニ地券ヲ渡ストキハ他ノ存城内士族ニ差響キ不都合ヲ生スヘキ念慮ト相見候、因テ尚審按候処時勢之変更ニ依リ不得止事トハ申ナカラ各地数千ノ士族ヲシテ彷徨憂慮其堵ニ安セシメサルハ決テ美事ニ無之、況士族将来生計上ニ付テハ深ク御注意有之起業国債ノ数部モ之ニ充ラル、程ノ儀ニ有之、然ニ眼前如彼困難ニ遭遇シタル士族輩ヲ荏苒其儘ニ被差置候テハ政府之御処置彼此矛盾一視同仁ノ御主意ニモ不相副不都合ノ至ニ付、此際独姫路城ノミナラス全国存城内居住士族ノ邸地即今陸軍省所用無之場所ハ内務省第一ノ見込ヲ拡充シ一般地券ヲ附与シ、他年陸軍所用之節ハ相当買上相成候様御決定有之度、勿論即今ノ儘ニテモ他年所用ノ節買上候儀ハ陸軍省定規ニ相成居候ニ付、此儀ニ付テハ同省ニ於テ差支有之間敷ト被存候、因テ御達按取調仰高裁候也

陸軍省ヘ御達按

全国存城内居住士族邸地処置未済ノ分其省ニ於テ即今所用無之場所ハ地券渡方ノ儀可相候条内務省協議可取計此旨相達候事

明治十三年二月二十八日 ㊞

内務省ヘ御達按

全国存城内居住士族ヘ地券渡方ノ儀ニ付別紙之通陸軍省ヘ相達候条該省協議ノ上地券渡方之儀管轄庁ヘ可相達協議処分可致此旨相達候事

明治十三年二月二十八日 ㊞

大蔵省ヘ御達按

全国存城内居住士族ヘ地券渡方ノ儀ニ付別紙ノ通陸軍内務両省ヘ相達候条此旨相達候事

〔「公文録」明治十三年十一月内務省二〕

二三　姫路城内居住士族の移転料等決定

国立公文書館所蔵

姫路城内士族邸地処分之儀ニ付伺

兵庫県下姫路城郭内居住士族邸地処分其他士族邸地ヲ包有セル存城内処分之義ニ付昨十三年四月十七日送第二四八二号ヲ以テ伺出候処、伺之趣該地所一時ニ買収之儀ハ難聞届候条、先其代地ヲ択ヒ移転料之金額取調可伺出旨同年十一月六日御指令相成候ニ付、姫路城内士族地之義ハ急ヲ要シ候事項ニ有之因テ代地之義該県協儀之上篤ト取調候処、官林ヲ除クノ外官有地ニ於テ換地ニ充ヘキ地所無之候ニ付無拠換地代金付与候積リヲ以テ金額取調候処別紙之金額ニ相及ヒ候、就テハ最前モ上申候通一昨十二年秋田城内士族邸地買収方之例ニ準シ姫路城内邸地之義モ内務省ニ於テ取斗候様致度、此段相伺候也

明治十四年五月四日

陸軍卿　大山　巌

左大臣　熾仁親王殿

姫路城内士族邸地買収金額

一金四万六千七百四拾四円拾八銭　総高

内訳

金壱万四千弐百七拾八円七拾壱銭　換地代

金三万〇六百八拾九円六拾七銭　移転料

兵地三六九号

姫路城内居住士族移転料等之儀伺

一金四万六千七百四拾四円拾八銭　総金額

内

甲金壱万四千弐百七拾八円七拾壱銭　地代金

此地坪四万七千五百九拾五坪七合

乙金三万六百八拾九円六拾七銭　移転料
此建坪五千五百五坪六合六勺
丙金八百六円　井戸堀料
此戸数百弐拾四戸
丁金九百六拾七円弐拾銭　家具運搬料
此戸数百弐拾四戸
戊金弐円六拾銭　物置一戸運搬料

右兵庫県下姫路城郭内士族居住地之儀ニ付客年三月二十六日付ヲ以買収方相伺、同年十一月六日付伺之趣該地所一時ニ買収之儀ハ難聞届候条先ツ其代地ヲ択ヒ移転料之金額ヲ取調更ニ可伺出旨御指令有之候ニ付、其趣旨ニ拠リ同県江指揮夫々令精査候処移転料其他之儀ハ頭書乙丙丁戊印之通ニ有之、然ルニ代地トシテ下渡スヘキ地所ハ官林ヲ除クノ外宅地応当之箇所更ニ無之、依テ姫路地方一里以内之郡村ニ移転スルモノト仮定シ、近傍畑地現時売買之真価ヲ調査シ可成丈節減ヲ加ヘ壱坪三拾銭之積ヲ以テ代地ニ充ツヘキ金額甲印之通算出之趣今回同県ヨリ開申、尚出京之県官ヨリ詳細具陳之次第モ有之、篤ト審按候所事実不得止ハ勿論代価之如キモ此上低減難相成儀ニ有之、旦現今該地士族之家屋ハ破壁頽檐スルモ安堵占居之途絶エタルニヨリ修繕不致得旁愍然之至ト存候間、速ニ御允可頭書総計之金額別途御下付相成候様致度、此段奉仰御指揮候也

明治十四年六月三日　内務卿　松方正義

大(太)政大臣　三条実美殿

内甲四七六号

明治十四年九月十五日

大臣（花押）　内閣書記官㊞㊞

内務陸軍両省伺姫路城内居住士族ヘ移転料支給方之事会計部勘(監)査進呈ス、依テ回議ニ供ス

参議　（寺島）㊞㊞㊞㊞

明治十四年九月十五日

会計部　主管参議㊞

別紙内務陸軍両省伺姫路城内居住士族ヘ移転料支給方ノ件ヲ案スルニ、右ハ昨十三年内務省ヨリ伺出タル節御決裁ノ要旨ハ、抑該城ノ儀ハ必須ノ要塞ニシテ欠クヘカラサル土地ニ付他ノ士族地ト等シク若シ之カ地券ヲ発シ民有ニ帰スルトキハ各自々由ニ地形ヲ変換スル等守備上ニ於テ最モ障害ヲ来ス恐レアルノミナラス、一朝事アルノ際ハ守備上障害ナリトシテ忽チ破砕若シクハ移転セシメサルヲ得ス、故ニ守備上ノ障害モ来タサス且該士族ヲシテ永遠其堵ニ安セシムルハ代地及ヒ移転料ヲ与フルニ若カス、然レトモ一時夥多ノ金額ハ支出セラレ難キヲ以テ、先ツ其代地ヲ撰択セシメ而テ移転料ノ総額ヲ審査シ、其金額ノ多寡ニ応シ十ケ年乃至十五ケ年ニ割合下付セラルヘキ筈御決議ノ上、当時内務省ヘ一時該地所買収ノ義ハ難聞届候条先ツ其代地ヲ択ヒ移転料ノ金額更ニ取調可伺出旨御指揮相成候末今般伺出タルモノナレハ、最前御決議ノ御趣旨ト幷今般陸軍省ヨリ至急為引払度段申出タルトノ旨意ヲ参酌セラレ、書面合金四万六千七百四拾四円拾八銭ハ向フ三ケ年ニ割合下付セラレ可然哉、内務部・軍事部協議ノ上左案ヲ付シ仰高裁候也

内務省ヘ御指令按

伺ノ趣合金四万六千七百四拾四円拾八銭手当トシテ本年度以降向フ三ケ年間ニ割合下付候条陸軍省協議ノ上漸次引移方可取計旨該県ヘ可相達事

明治十四年九月二十二日㊞（田中）

陸軍省ヘ御指令按

伺ノ趣内務省ヘ別紙朱書ノ通及指令候条目下必用ノ部分ヨリ漸次為引払候儀ト可相心得事

明治十四年九月二十二日㊞（田中）

大蔵省ヘ御達案

別紙内務・陸軍両省伺姫路城内士族移転ニ付手当金下付方ノ儀朱書ノ通及指令候条其本年度ニ係ル分ハ予備金ノ内ヲ以テ金額渡方可取計此旨相達候事

明治十四年九月二十二日㊞（田中）

会計検査院ヘ通牒㊞

〔「公文録」明治十四年内務省九月第二〕

四　城内居住士族移転料等一時下渡の願い出

国立公文書館所蔵

兵地甲第二八六号

姫路城内居住士族移転料等一時御下渡ノ義(儀)ニ付伺

客年六月三日付ヲ以兵庫県下姫路城郭内居住士族移転料等御下渡之義相伺候処、九月廿七日付ニテ伺之趣合金四万六千七百四拾四円拾八銭手当トシ本年度以降向フ三ケ年間ニ割合下付候条陸軍省協議之上漸次引移方可取計云々御指令相成候ニ付其旨同県ヘ相達シ置候処、今般別紙之通リ十五十六両年度ニ御下付可相成分一時此節御下渡相成度申出候ニ付審按スルニ、該士族中十四年度下金ノ配賦ヲ受ケタル者ハ幸ニ既ニ移転ヲ了シ候得共、爾後両年度下金ノ配賦ヲ受クヘキ者ニ至テハ徒タニ屈指シテ下金ノ期ヲ遅チ荒墻破壁ノ中ニ起居シ若クハ四隣既ニ毀チ去リタル空墟ノ間ニ介在スルノ不安心不便利等ノ事情ヨリ、不得已起債移転ヲ謀ルモノアル等彼レ等無聊ノ情態実ニ傍観黙止ニ忍ヒサル所ニ有之、加之追々空漠ヲ極ムルノ地ニ於テ点々各所ニ残留スルニ至テハ人民安寧上不取締ニモ相成候義ニ付、願クハ此際予定ノ恩旨ヲ拡充セラレ両年度分ノ金額一時御下渡ヲ蒙リテ彼レ士族ノ者ヲシテ速ニ安堵ノ途ニ就カシメ候様希望仕候、尤右ハ国庫ノ御都合モ可有之候得共前述ノ如ク目下無拠事情ニ立至リ居、而シテ該金ハ到底早晩御支出相成ラサルヲ得サルモノニ付今日繰上ケ御支出相成候テモ国計上左マテノ指響キハ有之間敷、且十五年度モ既ニ間近ク相成候ニ付実際ノ運用ハ止タ十六年度ノ分ヲ十五年度ニ繰上ル迄ニ可有之、然ルニ彼輩ニ在テハ則大旱ノ沛雨ニシテ之ヲ感戴スルハ前日ニ百倍可致筋ニ有之候条、旁以特別之御詮議ヲ以該県申立ノ通此節一時御下渡相成度、別紙相添此段相伺候也

明治十五年六月八日　内務卿　山田顕義

太政大臣　三条実美殿

（別紙略）

内甲三七七号

明治十五年九月二十五日

大臣（花押）　内閣書記官（印）

内務省伺姫路城内居住士族移転料等一時御下渡之事

右同議ニ供ス

参議　大木（花押）　伊藤　西郷　山田　大山（印）　福岡（印）
山県（印）　井上　松方（印）　川村（印）　佐々木（印）

明治十五年九月二十二日

第一局（太政官第一局）

別紙内務省伺姫路城内居住士族移転料等一時御下渡ノ件ハ、右移転料十四年度ヨリ三ケ年ニ割合御下付可相成処、初度ニ移転料ヲ領収セシ者ハ既ニ悉ク移転シ了リ四隣漸ク墟址荒園ノミヲ遺シ為メニ隣保ト聚居ノ便トヲ失シ安居難致ニ付、余ノ両年度分モ此度一時ニ御下付相成度旨願出、事実憫諒スヘキ状態ニ付繰上御下付相成度トノ趣ニシテ、大蔵省副申ニ拠レハ十五年度分ハ既ニ交付済ニ有之、十六年度モ常用在金ノ内ヨリ繰替御渡相成可然トノ趣ナリ、右ハ特ニ歳計上ノ都合ノミニ止マル儀ニ付大蔵省ニ於テ無異議儀ナレハ御聴許相成可然歟、左案ヲ具シ仰高裁候也

御指令按

伺ノ趣聞届候事

明治十五年十月三日（田中）（印）

御達按

大蔵省

別紙内務省伺姫路城内居住士族移転料等一時下渡ノ件聞届候条、十六年度渡ノ分ハ本年度常用在金ノ内ヨリ繰替渡方可取計、此旨相達候事

明治十五年十月三日（田中）（印）

会計検査院ヘ通牒（山田）（印）

〔「公文録」明治十五年内務省十月第三〕